

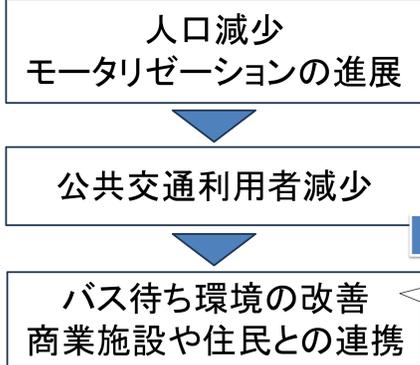
書店を中核とする商業施設へのバス停設置が 利用パフォーマンス及び生活満足度に及ぼす効果

Effects of Installing a Bus Stop in Commercial Facilities
Centering on a Bookstore on Use Performance and Life Satisfaction

高橋葉納(オリエンタルコンサルタンツ) 高野伸栄(北海道大学) 岸邦宏(北海道大学)

1. 背景と目的

現状と課題



北海道江別市では…

多くの市民が
江別蔦屋書店
へのバス停設置
を望む

目的

江別蔦屋書店を対象とし、
商業施設へのバス停設置を仮定

地域住民の生活満足度
向上への影響把握

商業施設への
影響把握

蔦屋書店とは

本の販売のみではなく、カフェやショッピングを
楽しむことができ、地域の方々の居場所となる
施設を目指している「ライフスタイル書店」



2. アンケート調査概

調査対象	江別市民
調査方法	アンケート調査
配布日	2023/12/8 (金)
締切	2023/12/22 (金)
配布数	2000世帯
配布方法	地域指定配達による郵送配布
回収方法	郵送回収
回収数	郵送：426部 / Google form：87部
回収率	郵送：21.3% / Google form：4.4% 合計：25.7%

質問項目	内容
個人属性	年齢、性別、自家用車の有無など
現在の蔦屋書店の 利用状況	現在の蔦屋書店の利用頻度、利用目的、 移動手段など
蔦屋書店にバス停が 設置された場合 について	バス停設置による蔦屋書店の利用頻度変化、 利用目的変化、生活満足度変化など

3. 結果

① 普段のバスの利用頻度と移動手段変化の関係

	いつも 利用する	状況によって 利用する	利用しない
バスを日常的に 利用する (n=123)	30.2%	52.7%	17.1%
バスをほとんど 利用しない (n=312)	5.4%	47.5%	47.1%

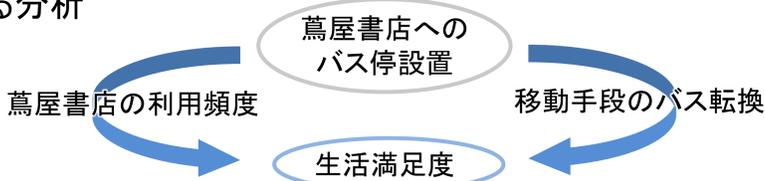
江別市の年齢別人口分布に従い算出

- バス転換が期待できると予想：普段からバスを利用する人
バス停設置 → 8割以上の方がバスを利用する可能性がある
- バス転換が期待できないと予想：普段バスをほとんど利用しない人
バス停設置 → 5割以上の方がバスを利用する可能性がある

② 共分散構造分析(SEM)による関係分析

共分散構造分析

関連を持つ複数の要素間の関係性やその程度をモデル化する分析



個人の移動可能性について

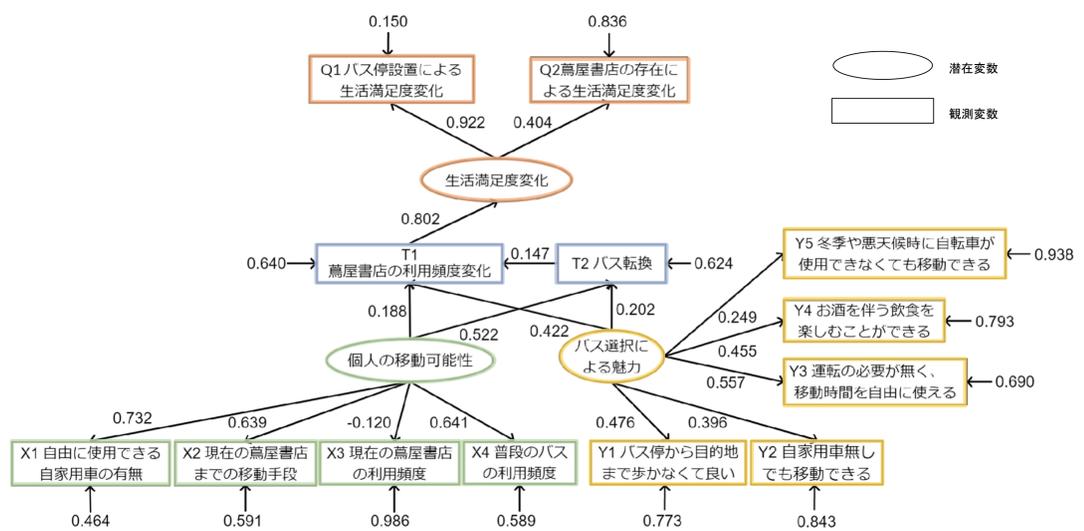
・バスの魅力を感じる人は現在の蔦屋書店の利用頻度が高く
なくても移動手段をバスに転換する

バス選択による魅力について

・バス停設置が蔦屋書店へ行く際にハードルとなっていたもの
を軽減してくれる

生活満足度について

・移動手段のバス転換が蔦屋書店の利用頻度の増加に影響
し、利用頻度の増加が生活満足度向上に影響している



4. 結論

商業施設へのバス停設置による効果
移動手段転換・商業施設の利用頻度増加・生活満足度向上